



復興庁

Reconstruction Agency

第2号

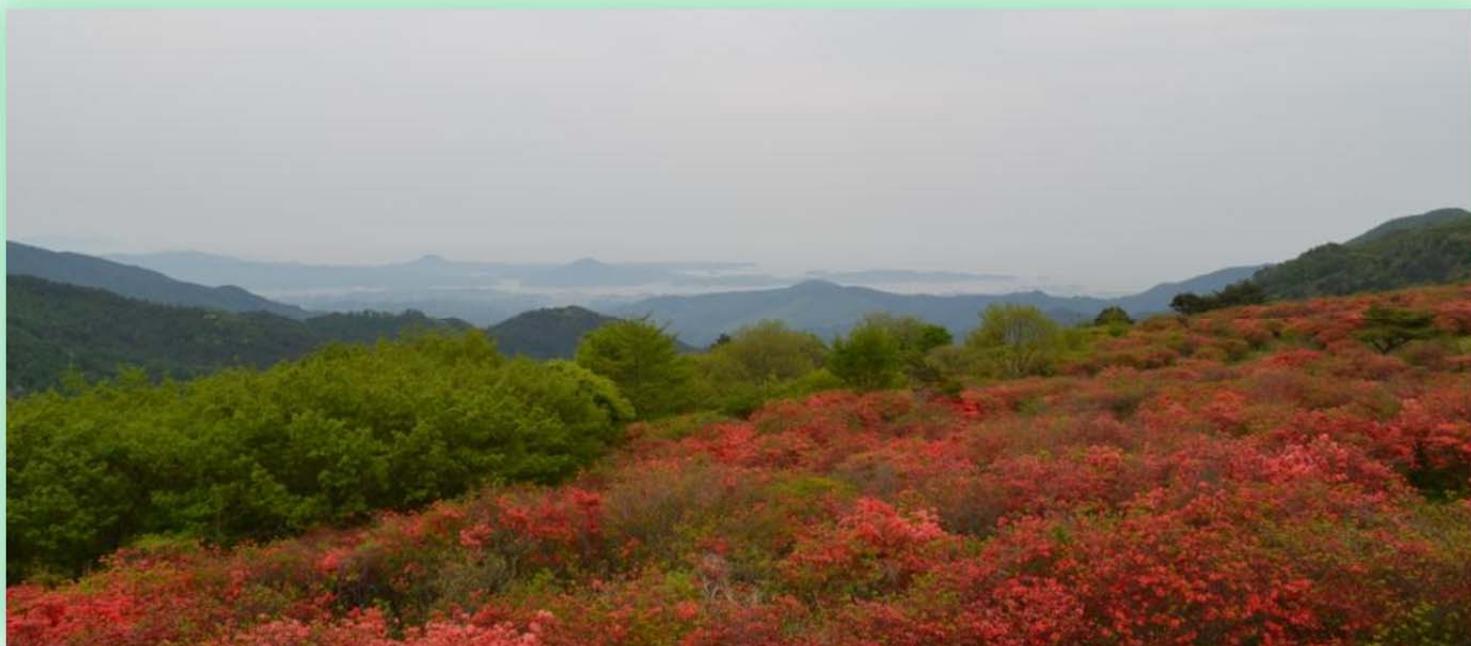
平成24年5月発行

復興庁気仙沼支所

気仙沼市笹が陣3-5

気仙沼市シルバー人材センター内

つちおと



◆徳仙丈山のつつじが見頃を迎えました。眼下には気仙沼の街並みが一望できます。ただ途中の道は一部が未舗装、凸凹はそれほど大きくないものの、通行の際は十分注意が必要です。

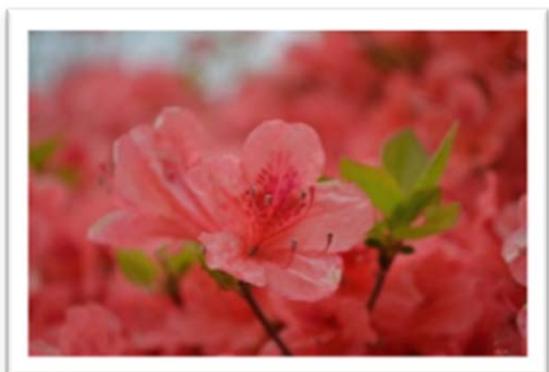
◆第2号の発行が遅くなってしまいました。首を長くして待っていたという方はいないと思いますが（^^）、忘れた頃に何となくやってくるのが「つちおと」なのだとお許しください。

◆5月は「訪問者」が目白押しでした。現場をよく見てもらい地域の声を届けることで、復興に弾みがつけばという思いを胸に支所一丸で対応しました。概要を掲載しましたのでご覧ください。

◆復興交付金の第2回配分予定が被災自治体に示されました。被害が甚大であるうえ、膨大な復興業務にあたる自治体職員が不足しているとの声もあり、大きな「つちおと」が響くまでには至っていないようです。自治体の方々は、第3回の要望にむけて引き続き交付金事業計画の立案・精査の作業を続けることとなりますが、必要な予算が確保できるよう、支所もきめ細かく、かつ積極的な自治体支援につとめて参ります。

◆5月22日、気仙沼市復興整備協議会が県庁で開催され、5地区261世帯の防災集団移転促進事業が承認されました。事業予定は平成24年度から平成27年度、いよいよ高台移転が本格的に始動します。

◆復興に関する悩みごと、まずは支所にお電話ください。(山)



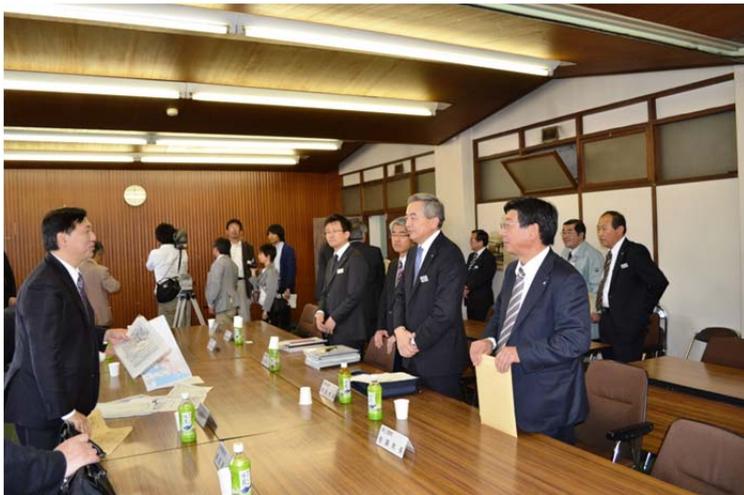
平野復興大臣、末松復興副大臣、五百旗頭委員長をはじめとする復興推進委員会が現地視察、意見交換のために気仙沼市と南三陸町を訪問しました。

5月15日

復興推進委員会の南三陸町訪問

東日本大震災からの復興のための施策の実施状況の調査や審議等を行うために、復興庁に設置されている復興推進委員会が南三陸町を訪れ、佐藤町長をはじめ南三陸町の関係者と意見交換等を行いました。

意見交換においては、復興推進委員会から、困ったことがあればどんどん相談してほしいとの発言がありました。



5月16日

末松復興副大臣と気仙沼市及び南三陸町との復興まちづくりに関する意見交換会

末松復興副大臣が気仙沼市を訪れ、菅原市長や佐藤町長と高台移転に関する意見交換を行いました。

末松復興副大臣から、もし、首都直下型地震等が発生した場合、世論の関心がそちらに向かいかねないことから、東日本大震災の被災地の高台移転については、これを速やかに進めなければならないとの発言があり、その後、国に求められる支援について活発な意見交換が行われました。

5月18日

平野復興大臣の南三陸町訪問

平野復興大臣、郡復興大臣政務官ほか、国・県の関係者が南三陸町を訪れ、現地視察と意見交換を行いました。

志津川中学校付近から志津川地区のまちづくりに関する現地視察が行われ、その後、町役場において、権利調整や住民合意が重要となる高台移転や区画整理を今後加速させるためには何が必要かを中心に意見交換が行われました。佐藤町長から、中心市街地の再建について、現在、合意形成に向けた地権者等の関係者の説明に取り組んでいるというお話があり、平野復興大臣は、専門家の派遣や人員の強化等について引き続き後押ししたいと応じました。





◆ 兵庫県災害救援専門ボランティア高砂晴美さんに聞く

今回は、気仙沼市を中心にボランティア活動等をなさっている兵庫県災害救援専門ボランティアの高砂さんへのインタビューです。

—いつごろから気仙沼市でボランティア活動をなさっているのですか？

震災直後の3月25日に気仙沼に入りました。当時は、新潟県で後方支援を行っていたところ、気仙沼に長期で入ることのできるボランティアが必要とのことで、私に声がかかりました。東日本大震災以前には、新潟県中越地震、新潟県中越沖地震、能登半島地震、その他に兵庫県洲本市、山口県防府市、兵庫県佐用町、鹿児島県奄美大島の水害や宮崎県新燃岳の火山災害などでボランティア活動をしてきました。

—今回の震災においては、どのようなボランティア活動を行ってきたのですか？

気仙沼に入った当初は、鹿折地区の浄念寺の避難所での支援を行いました。5月半ばには概ね被災された皆さんの自立に目途が立ったため、兵庫県に戻りました。

—兵庫県に戻られてから、再度気仙沼に来られたということですか？

そうです。兵庫県に戻り、ボランティア仲間と語らううちに、仮設住宅のサポートなどのやり残したことに取り組もうと考え、5月末には気仙沼に戻ってきました。

—その後はどのような活動をされたのですか？

主に仮設住宅のサポートです。仮設住宅には抽選によって様々な地区の皆さんが入居しているため、まずは、仮設住宅のコミュニティを形成する必要性がありました。そこで、例えば、イベントの開催を呼びかけました。まずは地元の皆さんができることをし、それに私たちがお手伝いすることを考えていたので、地元の皆さんでやりたいことを考え、できることを選んでいただき、そこに私たちが新たな催しを加えてイベントを行いました。イベントの内容を考える打合せには、当初5名程度しかいなかった地元の方がその後は20人くらいになりました。これを契機に仮設住宅の自治会が形成され、現在は仮設住宅の立地する地区の自治会と連携するようになりました。

—まちづくりに関するお話もされているのですか？

しています。ある時に、相談会を開催したいという話が持ち上がり、神戸まちづくり研究所の野崎事務局長に相談したところ、野崎事務局長が兵庫県知事と相談し、兵庫県からアドバイザーが来てくれることになりました。これを受け、仮設住宅のサポートとして、アドバイザーとともに、または、自分たちで仮設住宅の皆さんと住まいの再建に向けたお話をしています。

—最後に、気仙沼に来られてから印象深かったことはどのようなことですか？

最近、地元の人によく声かけられるようになりました。大変うれしいことです。



高砂さん(右)と菊田さん

高砂春美 (たかさごはるみ) さん

1945年福岡県生まれ。有限会社高砂流通代表取締役等を経て、1996年から兵庫県災害救援専門ボランティアコーディネーターとして各地の災害においてボランティア活動に尽力。現在は、菊田さん(写真左)が代表を務める一般社団法人ボランティアステーション in 気仙沼でボランティア活動を行っている。

*一般社団法人ボランティアステーション in 気仙沼
気仙沼市田中前2丁目12-3 (気仙沼さかなの駅)
0226-23-0899

復興交付金について

復興プラン実現のために
まちづくりの各種事業を支援。。

4月上旬に被災自治体から申請された復興交付金について、5月25日に交付可能額の通知が行われました。被災自治体への合計事業費は3,166億円で、うち気仙沼市は61億円、南三陸町は15億円でした。

今回の交付可能額通知においては、

- 防災集団移転促進事業、災害公営住宅整備事業、都市再生区画整理事業、漁業集落防災機能強化事業のうち早期実施が見込まれるものについては、当面の要望事業費に加え、実施目途が立った事業費の追加配分
- 市街地の再生を加速させるため、防災集団移転促進事業、都市再生区画整理事業、市街地再開発事業、津波復興拠点整備事業、漁業集落防災機能強化事業について効果促進事業等の一括配分が行われました。

また、3回目の復興交付金の申請の受付は6月末を予定しています。

クロスワードにチャレンジ!!!

答え「気仙沼支所では、皆様の『① ② ③ ④ ⑤

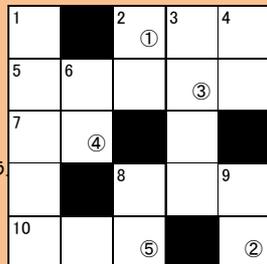
をお手伝いします。」

タテのヒント

- 1 気仙沼市の観光キャラクター
- 2 気仙沼市の木はクロ〇〇
- 3 奥州藤原氏も信仰した霊峰〇〇〇〇山
- 4 古いお寺
- 6 舞台の〇〇明け
- 8 さわると痛そう。〇〇ネズミ
- 9 復興マルシェがあるのは気仙沼市「なみな〇〇よう

ヨコのヒント

- 2 南三陸町の名物〇〇〇
- 5 徳仙丈山で今が見ごろ
- 7 わたし、〇〇、オレ
- 8 ねぶた祭りの踊り子
- 10 イモリではありません



【編集後記】

- ◆ 今回は、平野復興大臣、末松復興副大臣や復興推進委員会に同行し、気仙沼市及び南三陸町を訪問した記事を掲載させていただきました。現場を調査するとともに首長さんをはじめ地元の方々の生の声を聞かせていただきました。どうもありがとうございました。
- ◆ GWの記録的豪雨には肝を冷やしました。そうしてもうすぐ梅雨の季節。皆様におかれましては体調管理にくれぐれもお気をつけてください。

目には青葉

山郭公 初松魚

山口素堂



復興元年

「つちおと」発行元（お問い合わせ先）

復興庁 宮城復興局 気仙沼支所
電話 0226-23-5301
FAX 0226-23-5310